

## 毎日新聞社主催 私学公開座談会 第28回

### 22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育 が開催されました

9月2日(日) 日本大学経済学部にて、毎日新聞社主催・日能研協賛「公開座談会」が開催されました。

2010年からスタートしているこのイベント(2011年は実施せず)。「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時どきに適したテーマで開催しています。今年度は「22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

通算28回目の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、

麻布中学校・高等学校 校長 平秀明先生、女子学院 院長 鶴崎創先生 でした。

第1部は講演会形式で、それぞれの先生が、「自分の中にぶれない基準を(麻布・平先生)」「才能を人、社会のために使う(女子学院・鶴崎先生)」など、各校の教育理念について、人間教育への想いをこめて熱く語られました。

また、第2部では、パネルディスカッション形式で、当日来場していた子ども・保護者からの質問に先生方が応えつつ、「自分の頭で考える、多様性を認め合う」という理念で教育が行われているなら日本はもっと住みやすくなっていると思われるが、何が一番足りないか」…という切り口から話題が広がっていきました。

「私たちは6年間かけて人物を育てようと考えている。しかし日本社会では、国や経済の役に立つ人材を育てることが先に立っている。役に立つかどうかはわからなくても、興味関心を突き詰め、あるいは多くのことを広く学んでいこうとする人物を育てたい(女子学院・鶴崎先生)」「産業界の要請といった、外界の雑音から生徒たちを守るシェルターの役割が学校にはある。(麻布・平先生)」——お二人の先生が語られる言葉に共通していたのは、「こうなってほしい」という国や社会の要請よりも、一人ひとりが自分の中にぶれない「軸」を持つことの大切さ。そして、そのための18歳までの教育の時間のもつ意味や、私学が存在することの価値についてです。

私学にあるそれぞれの「自由」「個性」「時間」。その豊かさの中で、一人ひとりの〈私〉が多様なものの方や考え方と出会い、自分自身に問いかけ、自分の考えを明確にしていく。そんな〈私〉が育つ場所としての私学。

「2007年生まれの子どもの半数は107歳まで生きる」という予測があります。これから22世紀に向けて歩いていく“未来の大人たち”が予測困難な未来を強くしなやかに生きるうえで、先生方からの熱い想い、大切なメッセージを受け取ることで、豊かな時間でした。

当日の座談会記事は、9月27日の毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載されています。

ぜひ次月実施の、第29回公開座談会にもご参加ください。

## 第29回 公開座談会 日時：10月7日(日) 14:00~16:15

会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 第4校舎B棟

**対象** 小学1~6年生の保護者

**主催** 毎日新聞社

**協賛** 日能研

**後援** 日本私立中学高等学校連合会  
桜美林大学総合研究機構「教育未来研究プロジェクト」

【参加校ご登壇の先生】

- 慶應義塾普通部 部長 荒川 昭 先生
- 灘中学校・高等学校 校長 和田 孫博 先生



MAP

東急東横線・東急目黒線・  
横浜市営地下鉄グリーンライン  
「日吉駅」徒歩3分

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL: 045-473-2311 / FAX: 045-475-0544 / e-mail: pr@nichinoken.co.jp